

釜石写真展報告

2014年11月25日

11月23日、青葉ビルに10時半到着する。隣接する八階建てのビルには50所帯が入居しているという。案内ハガキをポストに入れさせてもらう。

午前の予約がキャンセルされていたので11時半に搬入開始する。オープンの14時までは十分時間がある。

展示方法は壁に① テーブル3個、② 反対にも3個並べ12枚の写真を置く。③ イス12脚に6枚、黒板に1枚乗せる、④ あとで実物大のオジロと交換する、⑤ 2.2mのオオワシは4脚使う。⑥ プロジェクターを設置、入口に立看板、フロントガラスの内側にも看板を置く。⑦ 会場が新しいのは被災したので修復したばかり、写真が映えるだろう。

最初の訪問者は宮古支部会員で釜石在住のご夫婦、初対面でも話がはずむ。宮古から来てくれた会員の方がいて恐縮する。

ハガキを見たという青葉ビルの方が訪れる。以前は宮古支部会員の時もあった顧問二人を知っているという。高田に住む妹は現在会員だという、もしかして誰々さんは弟さん？ 昔の勤務先の所長名をあげると、そうだという。さらに初代所長と同級生だったことを知る。案内ハガキを入れて正解だった、50所帯の代表はなんと身近な方だ。初日は13人と少ないが大切な方々だ。

翌日は8時40分に到着、⑧ 立て看板を同じに設置する。⑨ フロントガラスにも同じに飾る。

地震対策のため倒しておいた写真を起こして準備完了だ。

釜石野鳥の会・会長さんと釜石新聞の女性記者の方が一緒になる。会長さんは昔の職場同僚の娘さんが釜石新聞で記者をしていることを思い出した、お二人の話がはずむ。女性記者の方は両親に土産話が出来たと喜んでいて。

⑩ 毎日新聞の記事を見て来たというご夫婦がいた。各新聞社の岩手県発行部数をみると岩手日報は232,000部、読売新聞62,000部、朝日新聞40,000部、毎日新聞は16,000部で釜石の販売部数はわからないが毎日新聞を代表して来たことになる。

宮古支部会員で釜石在住のお二人が駆けつけてくれた。お一人は12月の定例探鳥会に釜石から参加していただけるとのこと。

久慈の知人二人がオオワシの実物大写真を見たいので訪れたと話す。宮古支部会員で釜石在住の女性も同じ写真を見に来たと話す。実物大を展示してよかった！

最終日の来場者数は20名、両日とも大部分が案内ハガキを出した人たちだ。

16時半に片付け開始して30分で玄関まで運び出す、積み込みは20分で終わることが出来た。

今回の計画は八戸、久慈、盛岡、大船渡、遠野、釜石が最後となる、すべて無事に終わった。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

2014年(平成26年)11月20日(木)

毎 日 新 聞

被災者の姿 渡り鳥に重ね

宮古市日影町のアマチュアカメラマンで、日本野鳥の会宮古支部事務局長の佐々木繁さん(71)が地元で7年間撮影し続けてきたオオワシを中心にした野生生物写真展を23、24の両日、釜石市で開く。「逆境を乗り越えて元気になってくれれば」と、東日本大震災の被災者をたくましい渡り鳥に重ね、沿岸各地で開催して今回が締めくくりとなる。

国の天然記念物のオオワシと最初に遭遇したの

オオワシの作品を並べて写真展の準備をする佐々木繁さん(宮古市日影町の佐々木さん宅で)



釜石で野生生物写真展

は1996年ごろ、市内の津軽石川河口でだった。翼の長さが2.5メートルもある大きな姿に「太古の恐竜がよみがえった」と驚き、その魅力にとりつかれた。

本格的に撮影を始めたのは2006年ごろで、毎年12月初めごろに宮古湾に飛来するつがいを追った。オオワシの目当ては漁から港に戻る底引き網漁船のスケソウダラ。ウミネコから横取りする時

オオワシ中心に

などの光景は絶好のシャッターチャンスだ。震災後、つがいはなぜか消え、別の2羽に代わったが、3月にロシアに帰るまで、楽しませてくれる。

展示するのは翼を広げた実物大をはじめ、海面を滑空する迫力いっぱいのB1判の写真。他にはオジロワシや自宅周辺で写した心むすぶリスなどの作品もあり、計19点。自分で現像、焼き付けをし、パネルも制作した。

写真展は沿岸では9月から青森県八戸市、久慈市、大船渡市で開催。釜石展は釜石市大町の青葉ビルで。会場では佐々木さん撮影のDVDの上映も。23日は午後2～6時、24日は午前9時～午後4時。入場無料。【鬼山親芳】

23、24日 宮古のアマカメラマン 佐々木さん

⑩